

関西経済レポート(11月号)

- 9月の鉱工業生産指数は前月比+5.2%と2カ月ぶりの上昇。足下、出荷も改善しているが、依然在庫は高水準であり、今後の生産動向には注意が必要。
- 10月の輸出額は前年比+10.9%と20カ月連続のプラス。輸入額は同+1.7%と2カ月連続のプラス。結果、貿易収支は+40億円と2カ月ぶりの黒字となり、前年に比して1,164億円改善。
- 10月の景気ウォッチャー現状判断DIは2カ月ぶりの前月比マイナス。先行き判断は2カ月連続の悪化。同月の消費者態度指数は3カ月連続の悪化。消費者心理の停滞感が増してきた。
- 10月の大型小売店販売は4カ月連続の前年比プラスで小幅改善を続けている。
- 10月の新設住宅着工戸数は2カ月連続の大幅減。持家、貸家、分譲の全てが2桁減となった。
- 10月の有効求人倍率は2カ月ぶりに改善し、6~8月と同程度の高水準。新規求人倍率は改善が続いており、雇用情勢は堅調。失業率は非労働力人口増加により、前月から小幅下落し、2カ月ぶりの改善。
- 10月の公共工事請負金額は前年比+10.8%と3カ月ぶりのプラス、季節調整値では2カ月ぶりの前月比マイナス。9月の建設工事は前年比+2.3%と29カ月連続のプラスも、伸びは6カ月連続で1桁となり前月から低下。
- 10月の中国の工業生産は、前月比+0.5%となり、9月の伸びから減速。

※「近畿」「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。

鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

※本レポートは、一般財団法人アジア太平洋研究所

“Kansai Economic Insight Monthly”と連携しています。

～ 関西経済のトレンド ～

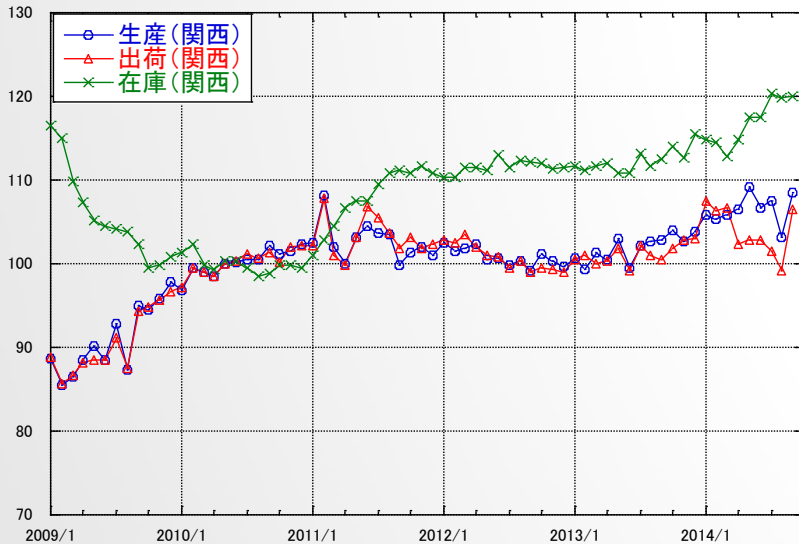
	2013年		2014年									
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
生産	➡	➡	➡	➡	⬇	↗	↗	⬇	↗	⬇	↗	
貿易	↗	⬇	⬇	↗	⬇	↗	➡	⬇	↗	➡	➡	↗
センチメント	↗	➡	⬇	⬇	⬇	⬇	↗	↗	↗	⬇	⬇	⬇
消費	↗	↗	↗	↗	↗	⬇	➡	➡	➡	↗	↗	↗
住宅	↗	↗	↗	⬇	➡	↗	⬇	➡	⬇	↗	⬇	⬇
雇用	↗	↗	↗	➡	➡	➡	↗	➡	➡	➡	➡	↗
公共工事	↗	↗	⬇	⬇	⬇	↗	↗	➡	➡	➡	⬇	↗
中国	➡	➡	➡	➡	➡	➡	➡	↗	↗	⬇	↗	➡

～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向①	7
中国経済動向②	8

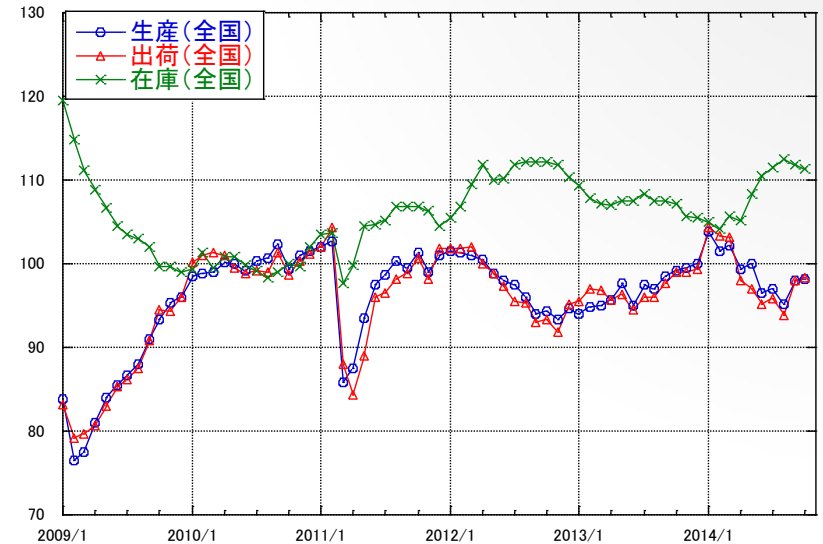
～生産～

鉱工業指数の推移(近畿・2014年9月まで), 2010年=100



(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

鉱工業指数の推移(全国・2014年10月まで), 2010年=100



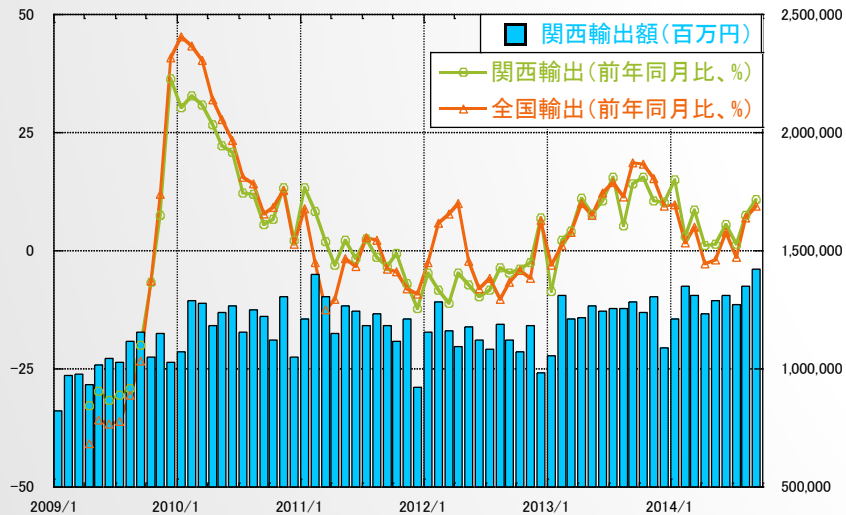
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

- ・ 関西における9月の鉱工業指数(確報値：季節調整済)は、生産は108.6で前月比+5.2%、出荷は106.5で同+7.4%、在庫は120.0で同+0.2%と、いずれも2カ月ぶりの上昇であった。
- ・ 業種別に生産指数をみると、金属製品(同+26.7%)、電子部品・デバイス(同+19.7%)、はん用・生産用・業務用機械(同+6.1%)等が上昇した。一方、食料品・たばこ(同-11.4%)、プラスチック製品(同-1.4%)等が下落した。
- ・ 前月から一転、生産の伸びはプラスとなったものの、7-9月期の生産は前期比-0.9%と3期ぶりのマイナス。足下、出荷も改善しているが、依然在庫は高水準であり、今後の生産動向には注意が必要である。

- ・ 全国における10月の鉱工業生産指数(速報値、季節調整済)は98.2となり、前月比+0.2%、出荷は98.4で同+0.4%といずれも2カ月連続の上昇。在庫は111.4で同-0.4%と2カ月連続の下落となった。
- ・ 業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(同+4.4%)、電気機械(同+3.2%)、電子部品・デバイス(同+1.6%)等を中心に増産となった。一方、輸送機械(同-2.6%)、情報通信機械(同-6.9%)、窯業土石製品(同-2.2%)は減産となった。
- ・ 前月の製造工業生産予測調査(10月調査)では、10月(前月比-0.1%)は僅かに減産の予定であったが、足下、生産は小幅増となった。同11月調査では、11月(同+2.3%)は増産、12月(同+0.4%)も小幅増産の見込みである。鉱工業生産指数が同様の伸びを見せた場合、10-12月期は前期比+3.2%と3期ぶりのプラスとなる。

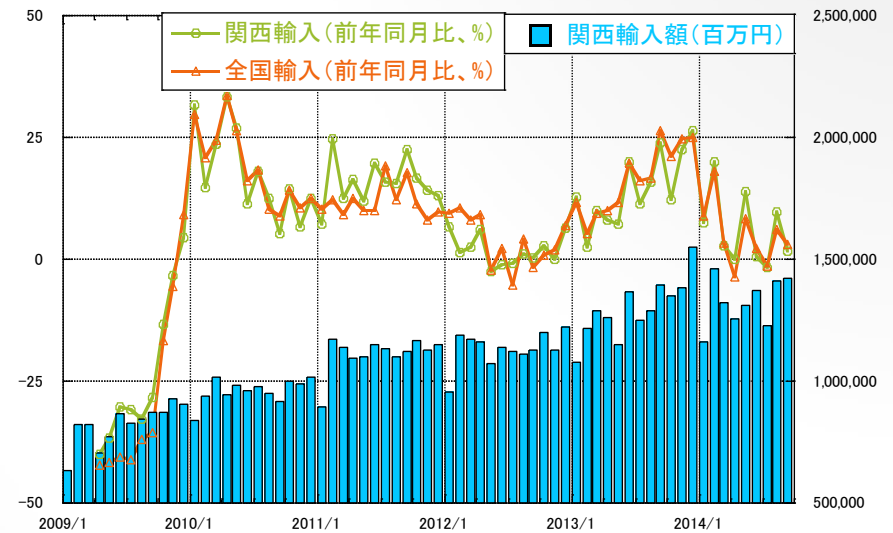
～輸出入～

輸出動向 (右: 輸出額、左: 前年同月比) (2014年10月まで)



(出所)大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」

輸入動向 (右: 輸入額、左: 前年同月比) (2014年10月まで)



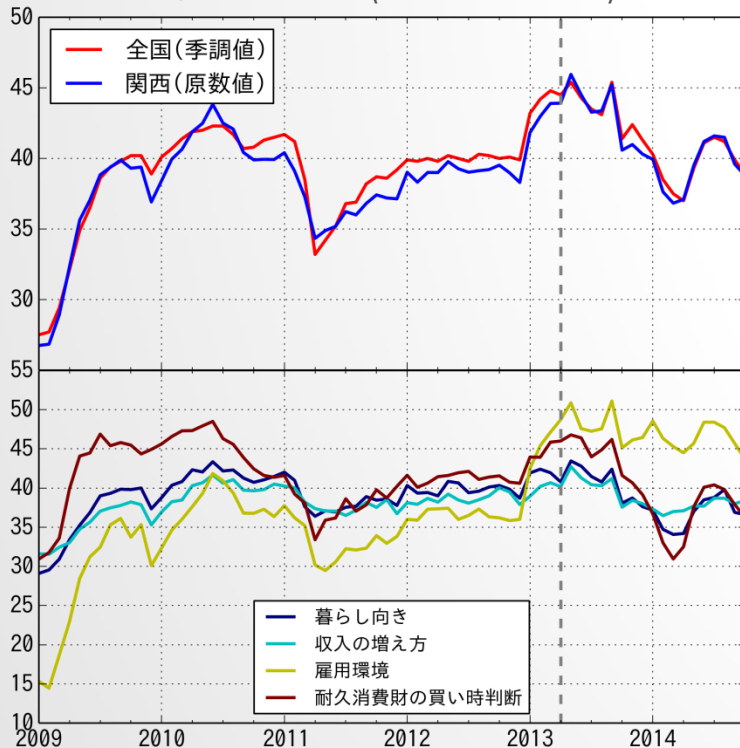
(出所)財務省「貿易統計」

- 関西10月の輸出額(速報値)は1兆4,253億円となり、前年同月比+10.9%と20カ月連続の増加。伸びは前月(同+7.5%)から幾分上昇し、8か月ぶりに2桁となった。
- 財別に見れば、輸出増加に主に貢献したのは、半導体等電子部品(同+10.6%)、有機化合物(同+26.8%)であり、いずれも単月過去最高額を記録した。
- 全国10月の輸出額(確報値)は6兆6,887億円となり、前年同月比+9.6%と2カ月連続の増加。財別に見れば、自動車、船舶、鉄鋼等の輸出が増加した。

- 関西10月の輸入額(速報値)は1兆4,213億円と2カ月連続の増加となり、10月単月の輸入額としては最高額を記録した。伸びは前年同月比+1.7%と前月(同+9.7%)から低下した。
- 財別に見れば、天然ガス及び製造ガス(同+31.2%)、通信機(同+32.2%)等の輸入が増加し、いずれも単月過去最高額を記録した。
- 全国10月の輸入額(速報値)は7兆4,256億円、前年同月比+3.1%と2カ月連続の増加。財別に見れば、通信機、肉類、液化天然ガス等の輸入が増加した。
- 結果、10月関西の貿易収支(速報値)は+40億円と2か月ぶりの黒字となり、前年に比してから1,164億円改善した。全国10月の貿易収支(速報値)は-7,369億円と28カ月連続の赤字。赤字幅は同-33.0%縮小した。

～消費者センチメント～

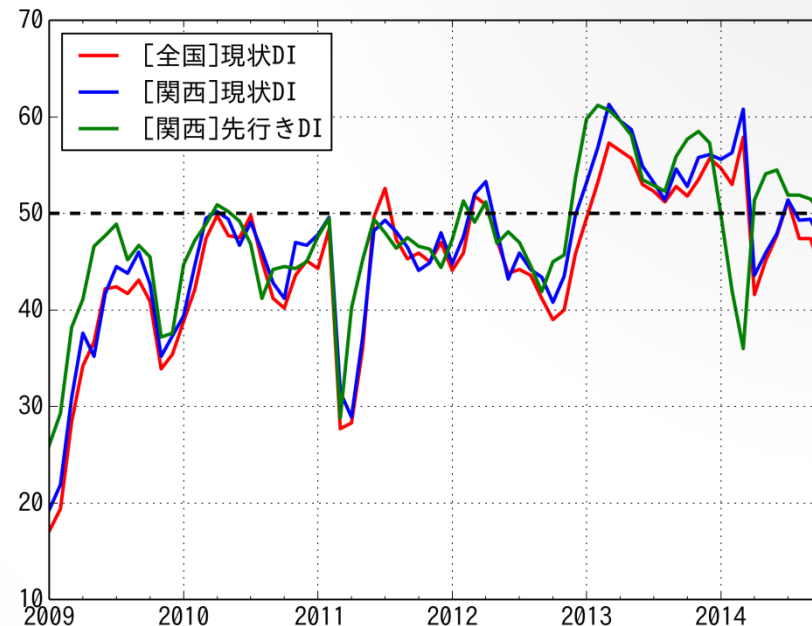
消費者態度指数(2014年10月まで)



(出所)内閣府「消費動向調査」(平成26年11月11日公表)

- 関西の10月の消費者態度指数(原数値)は前月比-0.8ポイントの38.8と、3カ月連続の悪化。消費者心理の停滞感が増してきた。
- 同指数の構成項目をみると、4つの指標のうち3つが前月からマイナスとなった。「収入の増え方」が同+0.4ポイントと2カ月ぶりに小幅プラスに転じたものの、「暮らし向き」は同-0.3ポイントと2カ月連続のマイナス。「雇用環境」は同-2.0ポイント、「耐久消費財の買い時判断」は同-1.6ポイントといずれも3カ月連続のマイナス。
- なお全国の10月の消費者態度指数(季節調整値)は38.9となり、同-1.0ポイントと3カ月連続の悪化。

景気ウォッチャー調査(2014年10月まで)

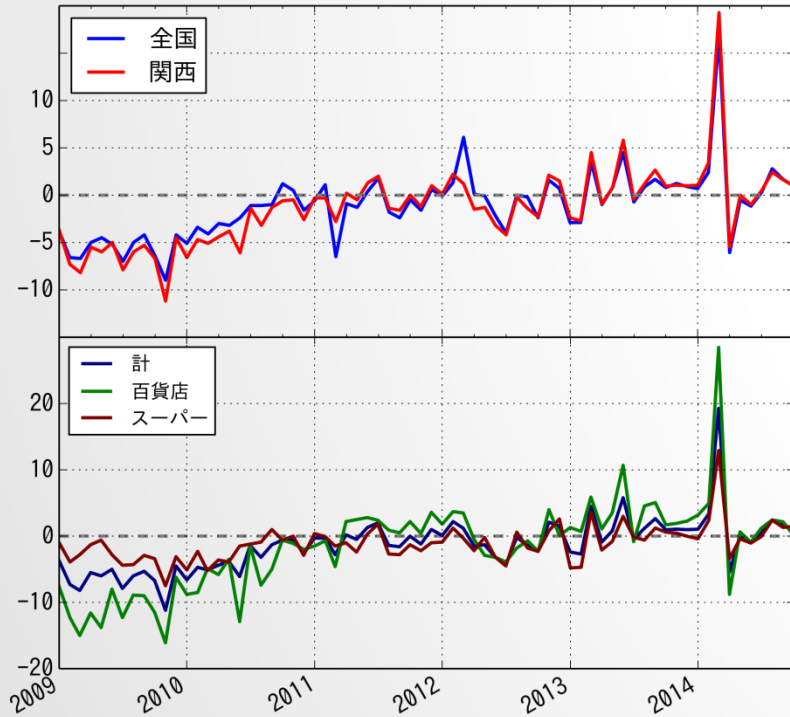


(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」(平成26年11月11日公表)

- 関西の10月の現状判断DIは前月比-2.4ポイント下落し47.0となった。2カ月ぶりのマイナス。
- 一方全国は同-3.4ポイント大幅下落し44.0となった。前月の横ばいから2カ月ぶりの下落。外国人観光客の増加が百貨店売上に寄与し、関西の落ち込み幅は全国より軽微となったようである。
- 先行き判断DIは、関西では同-1.5ポイント低下し、50.0となった。2カ月連続の悪化である。全国では46.6となり、同-2.1ポイントの低下。5カ月連続で悪化している。
- 7-9月のGDP速報値の民間最終消費支出の回復が限定的であったこともあり、今後センチメントの動向には注意が必要である。

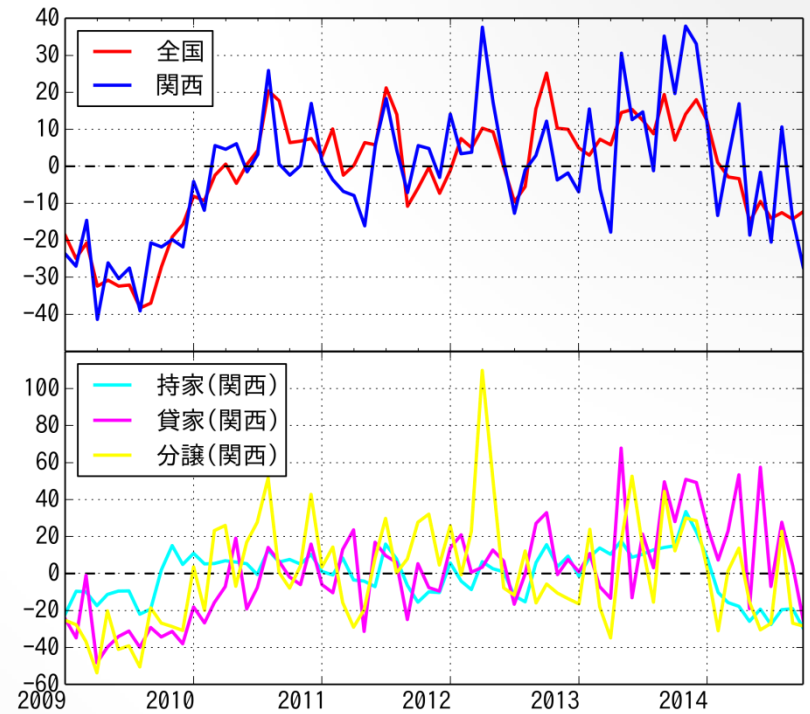
～個人消費・住宅～

大型小売店販売額(前年同月比:%、2014年10月まで)



(注)福井県を含む。
(出所)経済産業省「商業動態統計」(平成26年11月28日公表)

新設住宅着工(前年同月比:%、2014年10月まで)



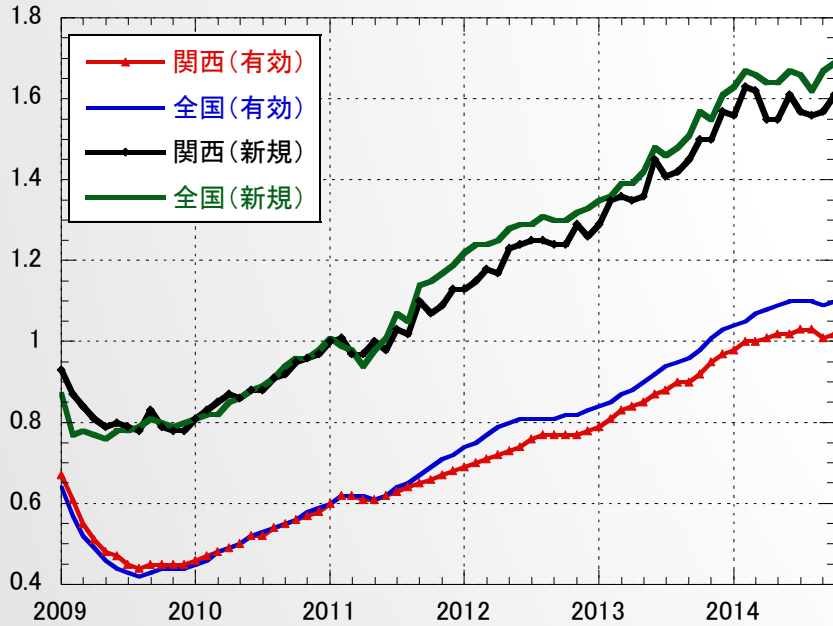
(出所)国土交通省「住宅着工統計」(平成26年11月28日公表)

- 関西の10月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+1.0%と4カ月連続のプラス。
- 百貨店も同+0.2%と4カ月連続のプラス。
- スーパーも同+1.5%と3カ月連続のプラス。
- 全国でも、10月の大型小売店販売額(全店ベース)は同+1.0%と4カ月連続のプラスとなっている。
- 関西、全国ともに消費は増税後緩やかながら改善が続いている。

- 関西の10月の新設住宅着工戸数は10,816戸。前年同月比-27.3%と2カ月連続の2桁減となった。
- 全国でも同-12.3%と8カ月連続で減少している。
- 関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は同-29.6%と9カ月にわたって2桁の大幅減が続いている。分譲も同-28.4%と2桁減が2カ月続いている。貸家も、同-25.2%と2カ月ぶりの大幅減となった。
- なお、10月の関西マンション契約率は72.8%(季節調整値、APIR推計)となった。好不調の目安となる70%を37カ月連続(原数値は9カ月連続)で上回り、販売は好調を維持。

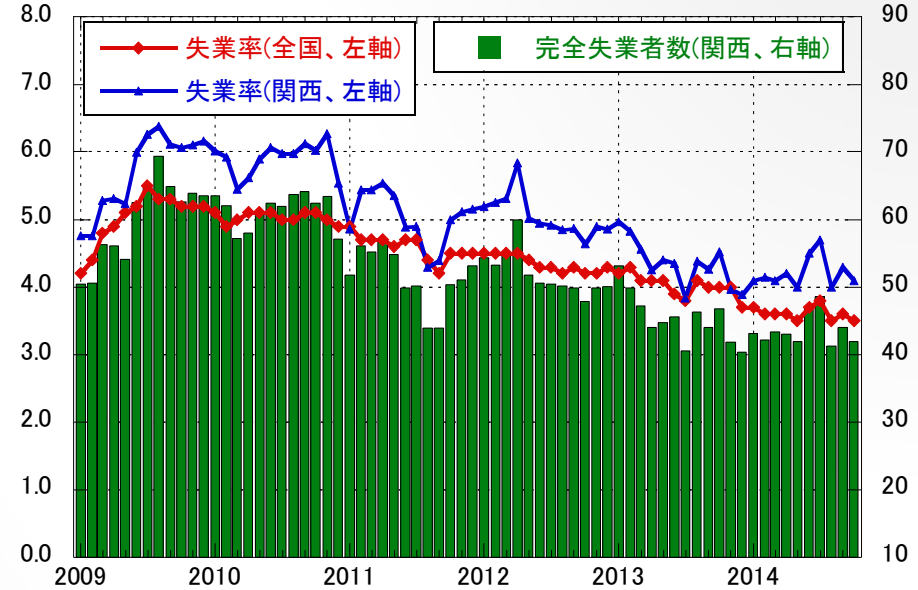
～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値、2014年10月まで）



（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」（2014年11月28日公表）

完全失業率の推移（季節調整値：％、万人、2014年10月まで）



（出所）総務省「労働力調査」（2014年11月28日公表）

関西2府4県有効求人倍率(2014年10月)

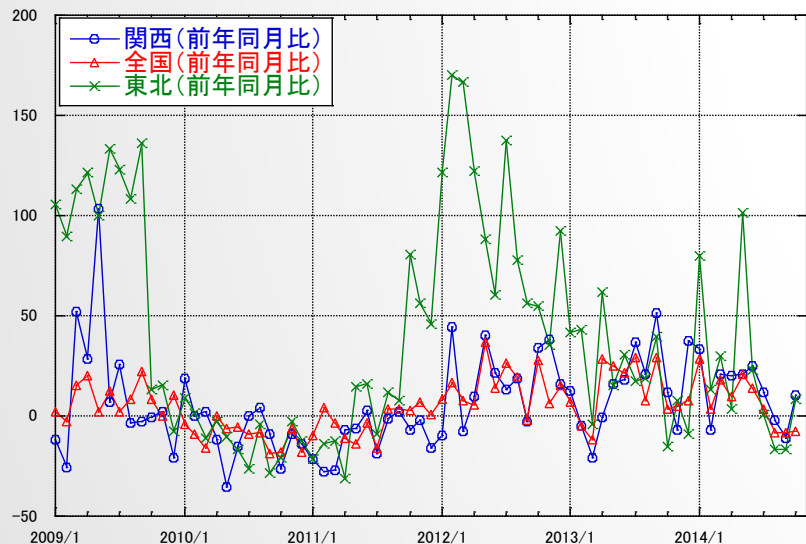
10月	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
受理地別	1.10	1.02	0.96	1.03	1.10	0.91	0.92	0.97
就業地別	1.10	1.01	1.11	1.08	0.98	0.98	1.03	1.06

- 10月の関西の有効求人倍率は、1.02倍と前月比+0.01ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善となった。全国は1.10倍で前月比+0.01ポイント上昇し、こちらも2カ月ぶりの改善。6～8月の高水準に戻った。
- 10月の関西の新規求人倍率は、1.61倍と前月比+0.04ポイント上昇し、2カ月連続の改善。生活関連サービス、宿泊・飲食サービス業が伸びており、外国人観光客増加が背景にあるとみられる。全国は1.69倍と同+0.02ポイントでこちらも2カ月連続の改善。雇用情勢は堅調。
- 関西の有効求人倍率を府県別にみると、多くの府県で改善したが、和歌山県で受理地別・就業地別ともに下落した。

- 10月の関西の完全失業率(季節調整値：APIR推計)は4.1%となり、前月(4.2%)から-0.1%ポイント小幅下落し、2カ月ぶりの改善となった。非労働力人口の増加が失業率の低下要因とみられる。
- 結果、関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は42.0万人。前月(44.0万人)から2万人減少した。
- 全国の完全失業率(季節調整値)は3.5%となり、前月(3.6%)から-0.1%ポイント小幅下落。男性の失業率は同+0.1%ポイント上昇、女性は同-0.2%ポイント低下した。
- 全国の就業率(原数値ベース)をみると、73.1%と前月(73.2%)と比べて下落したものの、高水準が続いている。15～64歳の女性の就業率は64.5%と過去最高を更新した。

～公共投資～

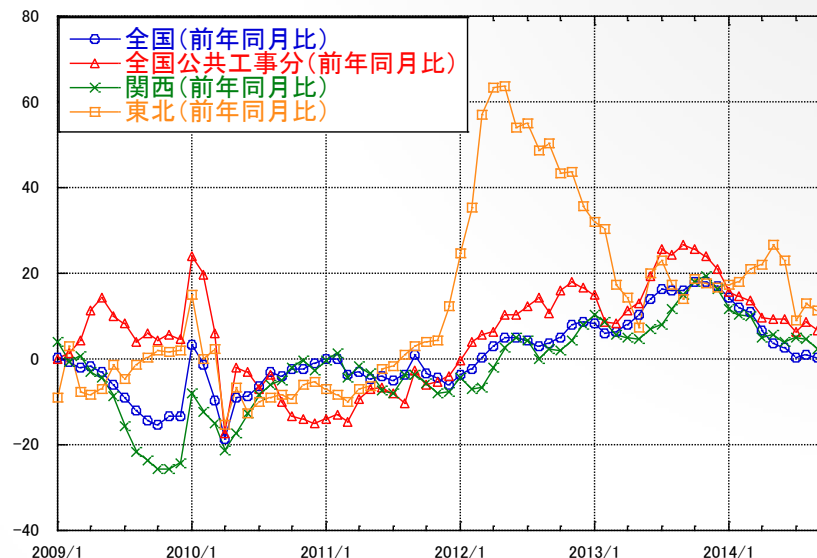
公共工事請負額(前年同月比:%、2014年10月まで)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

- 10月関西の公共工事請負金額は1,505億円で前年同月比+10.8%と3カ月ぶりの増加。
- 全国は1兆3,161億円で同-7.4%と3カ月連続の減少。東北は2,534億円で同+8.7%と、3カ月ぶりの増加となった。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、関西、全国共に2カ月ぶりに大幅な減少となった(関西：同-22.1%、全国：同-23.5%)。公共工事受注はこのところ停滞している。

建設工事(前年同月比:%、2014年9月まで)

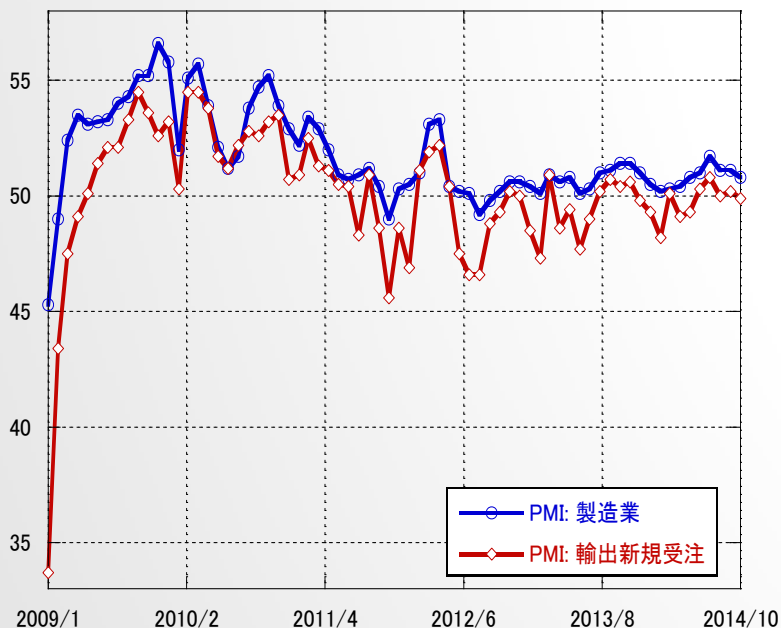


(出所)国土交通省「建設総合統計」

- 関西9月の建設工事は5,341億円、前年同月比+2.3%と29カ月連続の増加も、伸びは6カ月連続で1桁となり前月(同+4.8%)から低下した。
- 東北は5,723億円、同+11.4%と38カ月連続の増加も、伸びは前月(同+13.0%)から低下。
- 全国は4兆3,332億円となり同+0.3%と31カ月連続の増加となったが、前月(同+1.2%)より減速。うち、公共工事は1兆9,333億円で同+6.7%と32カ月連続の増加し前月(同+8.7%)から低下した。いずれも伸びは6カ月連続で1桁にとどまった。
- 全国的に建設工事の伸びは減速感が強まっている。

～中国経済動向①～

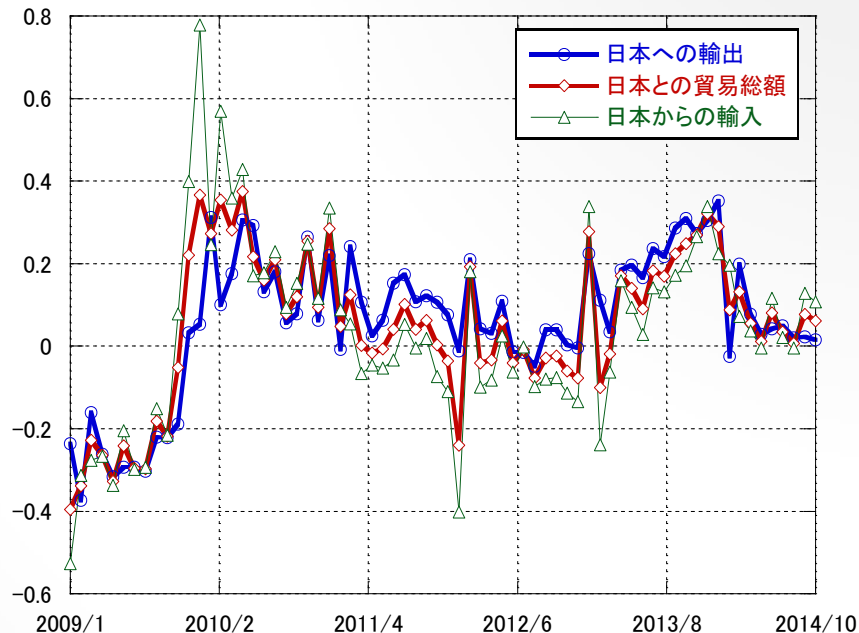
中国製造業購買担当者景況指数 (2014年10月まで:%)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 10月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は、前月から-0.3ポイント低下し、50.8となった。
- うち、生産指数は53.1と同-0.5ポイント低下し、2カ月ぶりの悪化となった。新規受注指数は51.6となり、同-0.6ポイント低下し、3カ月連続の悪化。輸出新規受注は同-0.3ポイント低下し49.9と、5カ月ぶりに50を下回った。一方、雇用指数は48.4となり、前月から+0.2ポイント上昇した。2012年6月以来、29カ月連続で50を下回っている。

日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2014年10月まで:%)

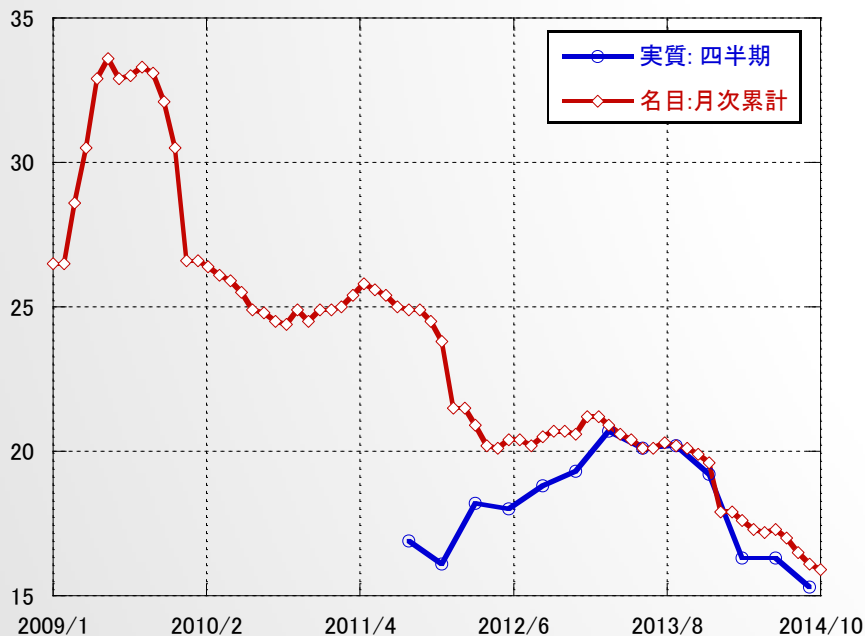


(出所) 中国税関; CEICデータベース(APIR計算)

- 10月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比+11.6%増加し、7カ月連続のプラス。輸入額は同+4.6%(速報値)となり、2カ月連続のプラスとなった。
- うち日本への輸出額は同-8.1%となり、3カ月連続のマイナス。日本からの輸入額は同+0.3%となり、2カ月連続のプラスとなった。
- 円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+1.5%となり、8カ月連続のプラス。日本からの輸入額は同+10.8%となり、2カ月連続のプラスとなった。

～中国経済動向②～

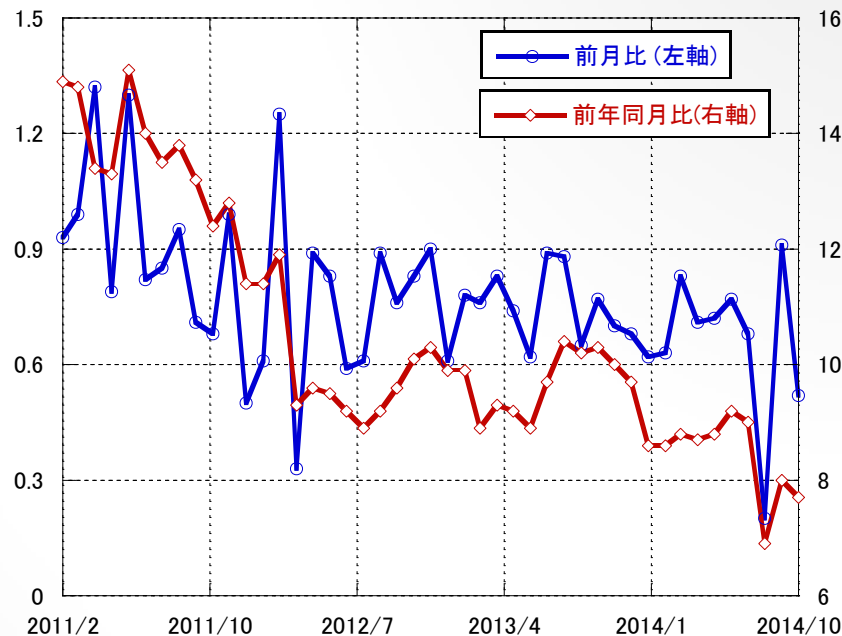
固定資産投資 (2014年10月まで:%) (累積伸び率)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 2014年1-10月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+15.9%と4カ月連続の減速(1-9月期同+16.1%)となった。産業別に見れば、第1次産業は同+28.9%(前月+27.7%)、第2次産業は同+13.4%(前月+13.7%)、第3次産業は同+17.4%(前月+17.4%)となった。

工業生産動向(2014年10月まで:%)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 10月の工業生産は、前月比+0.5%となり、9月の伸び(同+0.9%)から減速した。前年同月比も+7.7%と前月(+8.0%)より幾分減速した。
- 産業別に見ると、鉄道・輸送機器製造業(前年同月比+13.2%)、自動車製造業(同+12.6%)、パソコン・通信設備製造業(同+12.2%)が高い伸びを示す一方で、繊維工業(同+6.3%)、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同+4.7%)、電力・熱力生産・供給業(同+2.0%)は比較的低調な伸びにとどまった。

※関西経済のトレンド 評価基準について

- センチメント：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- 生産：近畿経済産業局『近畿地域鉱工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、前月比-0.5%以上低下していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 雇用：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- 消費：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 住宅：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 公共工事：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 貿易：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。